

よりよいこれからの生き方をお考えの方に

ゆかり通信

Vol.125

陽春号

2025年4月15日

この冊子はエデンの園ゆかり会
会員の方に年4回お届けしています。

社会福祉法人 聖隷福祉事業団 高齢者公益事業部 **エデンの園**「ゆかり会」情報誌



入居契約者の

入居時アンケート結果報告!

特集

浦安エデンの園

interview
エデンで働く人



- ご入居者一人ひとりに合う健康管理と適切な医療を
- 個人により異なる心地よさ 大切にしていることを継続支援

ご入居者一人ひとりに合う 健康管理と適切な医療を

都心に近い「新浦安駅」から約1kmにある浦安エデンの園。
全職員の願いは、ご入居者が自宅に近い感覚で自由に、最期まで自分らしく。
そのために欠かせない健康管理と医療を支えて14年目の
伊地知(いち)看護師に話を聞きました。

自宅に看護師がいる安心感 家族のように近い距離感

浦安エデンの園は入居時自立が条件ですから、元気に日々の生活を楽しんでいる方がほとんどです。それでも、ちょっとした物忘れや身体の不調に始まり、自分一人ではできないことが増えていきます。それはごく自然なこと。何かあつたら、という不安は年を重ねることに増えていきます。ここでは看護師が24時間常駐、全室にナースコールがあり、突然の体調悪化時も速やかに対応します。自分の家族に看護師がいて、一つ屋根の下に暮らしている感じでしょうか。私たちは、ご入居者にとって家族ではありませんが、身近な存在でありたいと常に思っています。

普段からの関わりがあつたからこそ、些細な異変に気が付き迅速な対応ができたのです。

延命治療や看取り期の医療 人生の最期をどう迎えるか

浦安エデンの園では、認知症や事故などで、自分の意思表示ができなくなった時に、自分が望む医療、望まない医療、処置を事前に意思表示しておく「リビングウィル」を確認しています。元気づけに人生の最期をどう迎えるか考え、ご家族と話し合うことはとても大切です。私たち看護師は救急車に同乗する機会が多いですが、救急隊から必ず「リビングウィルはありますか」と聞かれます。ご入居者本人が決めた人生の終わり方を全力でサポートするのがエデンの園です。最期まで自分らしく、思う通りに過ごしてほしいと願っています。

※リビングウィルとは、終末期の医療ケアについての意志表明書

介護士と看護師が密に連携 アットホームな雰囲気が一番

私たちの主な仕事は、薬の管理や血圧の測定、受診の付き添いや傷の手当てなどですが、食事や入浴、排泄の介助も行います。介護士と看護師がご入居者一人ひとりの情報を共

医療機関を選ぶのはご入居者 あくまでご本人の意思を大切に

施設内に診療所はありませんが、目の前に「メディカルガーデン新浦安」、車で10分ほどの距離に「浦安病院」、他にも個人医院など、数多くの協力医療機関・指定医療機関があります。どの先生に診てもらうのか、決めるのはご入居者本人です。もちろん私たちが、ご本人の性格や病状を考慮しながら、より状況に適した病院を紹介する場合もあります。それでも一番大切にしているのは、ご本人の意思。ご入居者が、自分に合った医療機関を自由に選べるのは、より自分らしく生きるために大事なことだと思います。

※協力医療機関とは、園が協力契約を締結している医療機関です。
※指定医療機関とは、通院または入退院等の付添い、介助などのサービスを提供すると定めている医療機関です。

有し、同じ方向を向いて介護や治療を行えるよう常に話し合っています。ここに来て14年目になりますが、治療が前提の病院と違い暮らしが中心なので、一人の方と接している期間が長く、ご入居者との家族のような関係が楽しく、とても働き甲斐のある職場です。職員間の距離も近く、園全体がアットホームな雰囲気に包まれています。これからもご入居者一人ひとりに合った健康管理と適切な医療を目指し、ご入居者の願う健康な暮らしを支えていきたいと思っています。

いちいちすぐれ
伊地知スグレ
(56歳)
浦安エデンの園
ケアサービス課
看護師

千葉県出身。
専門学校を卒業後、21
歳から看護師として働き、総合
病院や個人医院を経て、2011
年から浦安エデンの園へ。
看護師歴35年、同園で14
年目を迎えるベテラン
看護師。

少しでも長く健康な生活を 異変への「気づき」が大事

ご入居者の健康管理は私たちの大切な仕事です。定期健康診断を案内し、本人の了解のもと診断結果を共有し、再検査や治療が必要な方には、受診したかどうか常に声かけしています。私が特に意識しているのは、ご入居者の異変への「気づき」。自分で身体の不調を言う人ばかりでなく、我慢してしまう人もいます。少しでも何か変だなと思ったら声をかけています。あるご入居者の様子がいつもと違うことに気づき、お声がけした時も、やはり違和感を感じたので、そのまま病院へ付き添い受診しました。その結果、脳梗塞と診断されました。幸い早期の発見の為、大事には至らず、ご家族からも感謝のお言葉をいただきました。



個人により異なる心地よさ 大切にしていることを継続支援

介護士32名、看護師11名から成る浦安エデンの園のケアサービス課。ご入居者一人ひとりに合わせたケアを追求するチームをまとめる増淵課長に、園の特長や大事にしていることを聞きました。

浦安の街が好きなお入居者と職員
長く勤めているからこそわかること

浦安エデンの園に来て2年目、ご入居者も職員も、浦安の街が本当に好きな方が多いと感じています。都心に近く便利な上に、緑が多く海も近い。魅力的なお店も多く、土地をよく知る者同士、楽しそうに話をしている光景をよく見かけます。園には60代から100歳を超える方まで色々な方が暮らしています。長く勤めている職員が多く、ご入居者一人ひとりが生活する上で大切にしていることを知っています。ご入居者によって異なる心地よさが継続できるように、職員全員で支援していく風土が浦安エデンの園のいいところです。

介護士に近い看護師の存在
重なる部分が多いメリット

私は介護士ですが、ご入居者のケアに医療は欠かせません。医療の介入が必要なタイミングは、常に看護師と話し合いながら、医師との相談につなげています。浦安エデンの園では、看護師が食事や排泄の介助も行い、内服管理を看護師に確認しながら介護士が行うなど、重なる部分が多いので互いの仕事への理解が深く、一人のご入居者に対して介護と看護の両面から支援できます。

例えば褥瘡(床ずれ)があった場合、車椅子に乗っている時間やどっぴ姿勢でいるのが皮膚の治療にとって望ましいかなど、看護師がそ

必ず訪れる看取り期
最期は穏やかに迎えたい

ご入居者には自分の親を看取った方たちも多く、「自分の場合はこうしたい」と考え、ご家族とも話をした上で入居を決めてくる方が増えています。終末医療期などの意思表示をする「リビングウィル」も以前より一般的になってきました。人工呼吸器や胃ろうなど、延命治療については、はっきりとした意志を持っている方が多いと感じています。病院で亡くなる方もいますが、約7割の方は園で看取ります。最期をどこで迎えるかは、ご本人の意思を最優先に本人・家族と医師が話し合い、連携して決めますが、園内では積極的な治療はできません。点滴や痛みのコントロールは在宅支援診療所医師の指示のもと、園の看護師が対応します。

私自身や自分の親の看取り期を考えた時、まずは自分の好きなことをしながら、自分のことをわかってくれる人に囲まれて、穏やかに最期を迎えたいのが正直な気持ちです。浦安エデンの園ならそれが叶う、本人の望む支援ができる場所でありたいと思います。

自分らしい人生を最期まで
心地よさを全力サポート

介護や看護を行う上で大前提となるのは、ご入居者によって性格や考え方、生活習慣が違うこと。懐に入ってほしい距離感も異なります。何度に対話と関係を重ね、職員間で情報を共有しながら、ご入居者一人ひとりが自分の家のように心安らぐ場所を目指しています。ケアにおいては、介護士、看護師だけでなく、理学療法士や栄養士、フロントの職員とも話し合い、ご入居者本人やご家族にとって何がベストなのかを追求するのが浦安エデンの園です。入居から最期まで、自分らしく心地よく暮らせるよう全力でサポートします。



ますぶち ともよ
増淵 朋代
(49歳)
浦安エデンの園
ケアサービス課課長
介護士
千葉県出身。
2003年、聖隷福祉事業団
に介護士として入職。松戸
ニッセイエデンの園で介護の
現場から生活サービス課の仕
事を経験し、2023年から
浦安エデンの園へ。

健康診断結果を踏まえたフォローはもちろん、園全体では、脳に刺激を与える音楽療法をはじめ、体操や脳トレなどの介護予防活動も積極的にを行っています。年に1回行う体力測定では、自分の体力が低下していないかを確認します。それでも歳を取れば、日常生活を送るのに苦しい部分、困る部分は必ず出てきますが、エデンの園の介護は自立支援が基本です。車椅子を使えば簡単ですが、頑張つて少しでも歩いていただく。ご入居者のお気持ちを尊重し、自分で出来る日常をさりげなく支援することが、いつまでも自分らしく生活できることにつながるからです。もちろん、出来ないことはしっかりサポートしますが、少しでも自立期を長く過ごしてほしいと願っています。

